

課題

『瀬戸珪砂採掘場再生建築』

課題内容:

愛知県瀬戸市は、名古屋市の東約20kmに立地する緑豊かなまちです。「せともの」といえば、やきものの代名詞。瀬戸市はその「せともの」の生産地で、1300年のやきものの歴史と伝統が息づいています。その瀬戸市内に、広大な珪砂採掘場があります。現在稼働中です。現在のプランは、埋め戻して、植林するという計画のようですが、この広大な地を、どのように再生しまちづくりに活かすのか、具体的なビジョンはまだありません。そこで今回の課題では、この地を長期的な展望に立ち、魅力的な空間に再生させる全体構想と関連する建築を一緒に考えていきます。

敷地のまちと歴史などの調査→基本コンセプトの発案→建築の具体化→設計→図面でのプレゼンテーションの一連の流れを随時チェックをしながら、最終的な図面でのプレゼンテーションによって、第三者へ伝える力を今まで以上に養うことも今回の課題の狙いとしています。

チーム構成:

3人を自分たちで構成して、それを1チームとします。

ディスカッションやプレゼンテーションなどで力を合わせる。

課題地:

愛知県瀬戸市の珪砂採掘場跡地。住所は、愛知県瀬戸市陣屋町119-1。巨大な露天掘り鉱山で、その風景の雄大さがグランドキャニオンに似ていることから和製グランドキャニオンとも呼ばれています。珪砂はガラス・ビンの原料で最盛期は全国の8割がこの地で採掘されていました。



最終提出物:

課題地に関する分析、提案のコンセプトなど、2週間でディスカッション・スタディした結果を、↓の要領で表現する。

課題日程:

○5月29日(木) 課題の説明

10:30~14:30 課題の出題、解説、チーム分け、ディスカッション

○5月29日(木)~6月1日(日) 課題地の分析→ディスカッションとスタディ

チーム毎に実物模型のみでディスカッションとスタディを進め、必要なときは出題者へ来室、メールもしくは電話すること。24hours。メールを送る際は、メールの本文と模型写真等を送ること。まだCADは使わない。積極的に質問する。

○6月2日(月) チーム毎に出題者による中間チェック→スタディ内容のクオリティを上げる 模型やスケッチでスタディもしくは、表現する。

○6月2日(月)~6月4日(水) 受けたアドバイスをもとに、各チームで、スタディ内容のクオリティを上げることに専念し、必要に応じて出題者へ連絡すること。24hours。まだCADは使わない。

○6月5日(木) 各チームで考えたことを提案する建築のスタディ模型に盛り込む 模型のみでスタディ・表現する

○6月6日(金)~6月8日(日) 受けたアドバイスをもとに、各チームで、スタディ内容のクオリティを上げることに専念し、必要に応じて出題者へ連絡すること。24hours。まだCADは使わない。

○6月9日(月) 各チームで考えたことを提案する建築の最終模型に盛り込む 模型のみで最終スタディ・表現する

○6月10日(火)~6月12日(木) 6月9日(月)までに出题者と打ち合わせた結果をもとに、A2図面3枚に提案内容と模型写真等をまとめてプレゼンテーションする。

○6月16日(月) 13:00~16:10 講評会 →講評会には、12日に提出したA2図面とは別に、プレゼンテーション用としてパワーポイントやアニメーション等を制作して持参することを奨励します。チーム毎に講評します。

備考:

一昨年から、愛知建築士会と出題者で共同して学生コンペを開催しています。第一回目には黒川紀章さんに審査院長をお願いして北川先生と共に最終審査をし、第二回目には中村拓志さんに審査委員長を、今年は藤本壮介さんに審査委員長をお願いしています。ホームページ等に、その際の内容が全て掲載されていますので、課題中も課題後も含めて、参考にする。毎年、北川先生が出題してまして、今回は、この課題を通して、第三者へのプレゼンテーション能力を伸ばし、最終的に、是非、コンペで受賞してもらえることを目標としています。

卒業して社会に出てからも建築界はコンペの連続ですので、コンペを獲得のコツもみんなで修得します。